

# 四郷地区 防災・減災アンケート集計結果報告

四郷地区まちづくり協議会

住み良い暮らし委員会

昨年10月～11月には本アンケートにご協力いただきましてありがとうございました。

大変遅くなりましたが、このほど四郷地区全体の集計結果がまとまりましたのでここにご報告いたします。今後の防災の取り組みに活かしていただければ幸いです。

## (アンケートの集計について)

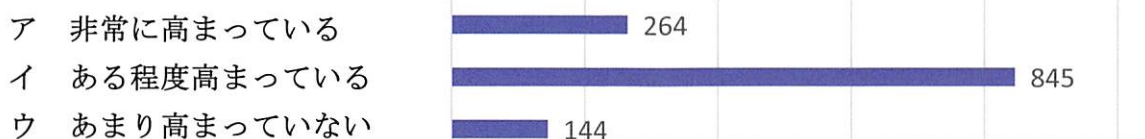
○各設問は、四郷地区の合計数をグラフで表し、記述の部分は一部を除き地域ごとにまとめました。

○記述回答の部分（「災害にあたって不安に思うこと」「防災・減災に関する研修や講演の希望」）につきましては、多ページに及ぶため各町にのみ送付しました。記述の内容につきましては、各町会でご確認ください。結果報告の中の（中）は中村町、（楠）は楠部町、（緑）は緑が丘、（一）は一宇田町、（朝・自）は朝熊町自治会、（朝・委）は朝熊町委員会、（鹿）は鹿海町を表します。

○アンケート配布数1594、回過数1294で回収率は84%でした。

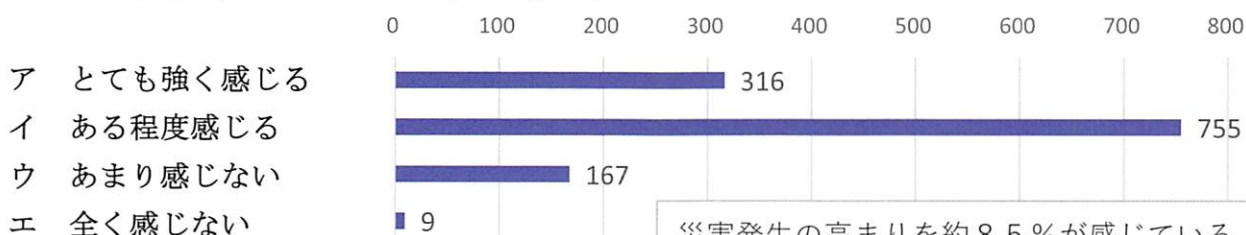
## (防災への意識について)

1. 最近、自然災害が全国で起こっています。今、あなたの防災意識はどのような状態にありますか



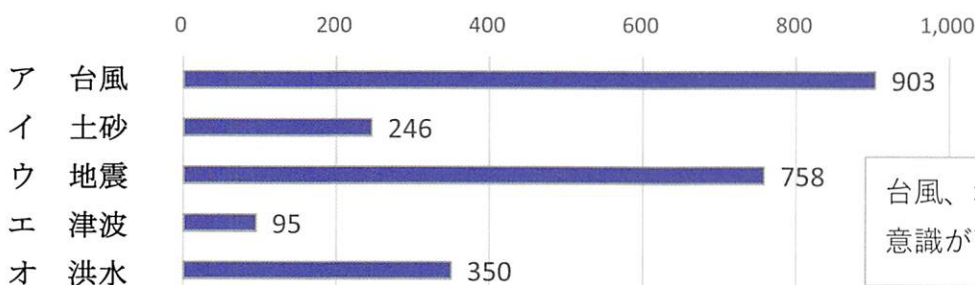
アとイの合計は約90%であり、防災意識は高い。

2. あなたのお住まいの地域では、地震や台風、大雨など、大きな自然災害が発生する確率が、年々高まっていると感じますか。



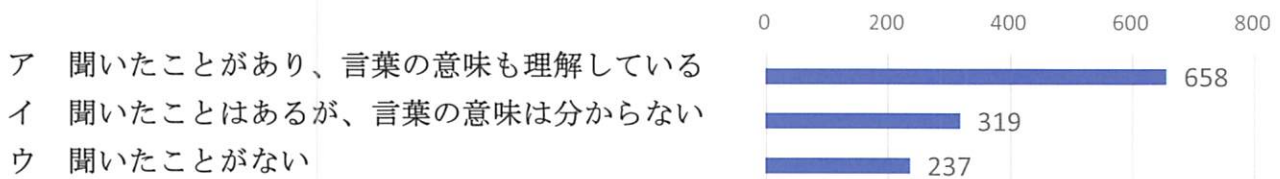
災害発生の高まりを約85%が感じている。

3. あなたがお住まいの所で、危険を感じる災害はなんですか。特に危険度を高く感じる災害を二つ選んでください。



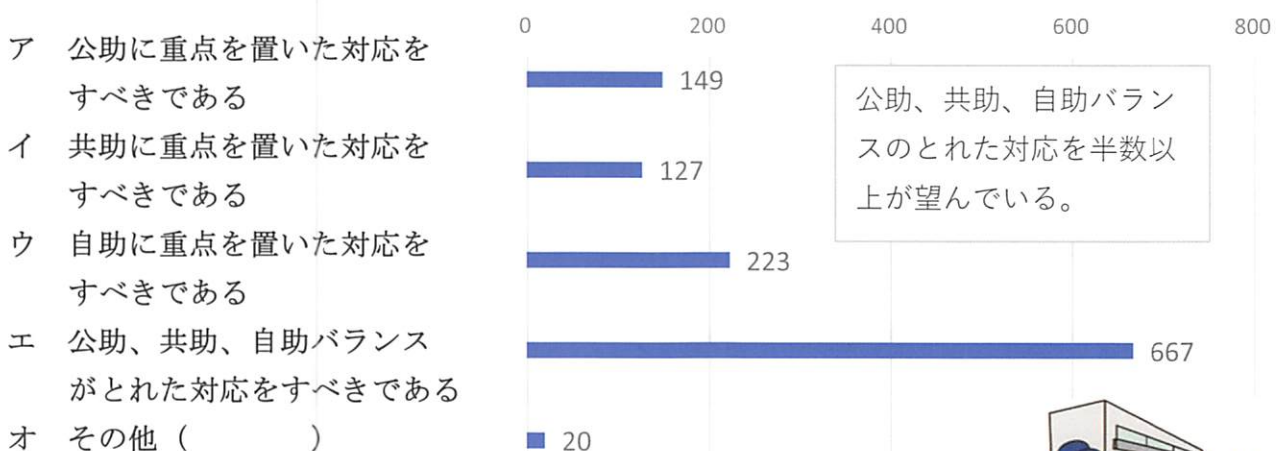
台風、地震に対する危険意識が高い。

4. あなたは、防災に関して「自助」、「共助」、「公助」という言葉をご存知ですか。次の中から1つお答えください。



理解の割合は約54%で、理解度は高いとは言えない。

5. 災害が発生したときに、その被害を軽減するためにとる対応について、国や地方公共団体による「公助」、地域の住民やボランティア、企業等の連携による「共助」、自ら身を守る「自助」というものがあります。災害発生時に取りべき対応として、次の中からあなたのお気持ちに最も近いものを1つお答えください。



公助、共助、自助バランスのとれた対応を半数以上が望んでいる。



その他 ( ) に記入されたこと

- ・まず自助に重点を置く ・迅速な公助を望む
- ・現実的には自助・共助・公助の順にならざるを得ない
- ・自治体は高齢化していて具体的に話し合いがない ・地域の実情に応じた対応が必要
- ・発生時においてア～エを考える

### 3 (防災への備えについて)

1. あなたは「ハザードマップ」(防災マップのことで、洪水による浸水予想図や土砂災害の危険地域の図などがあり、市役所、各総合支所、各支所にある他、市のホームページに掲載している)で、ご自宅周辺の災害リスクを確認していますか。



ハザードマップでのリスク確認率は約56%である。

確認している どのようなリスクですか ( ) に記入されたこと

(中) ハザードマップ 洪水・浸水・津波・浸水箇所の確認 台風 防災マップに記載すべて

土砂災害 堤防決壊のリスク 家が壊れる リスクがない事を確認

(楠) 浸水・洪水(61) 土砂(16) 堤防決壊(3) 液状化 地震 暴風

(緑) 土砂-がけ崩れ(51) 浸水・洪水(21) 地震(2) 避難場所が倉中になっているが海側の人達が倉田山丘陵を目指すと考えられ他の施設も含め避難場所のキャパシティが圧倒的に足りないと思っている。

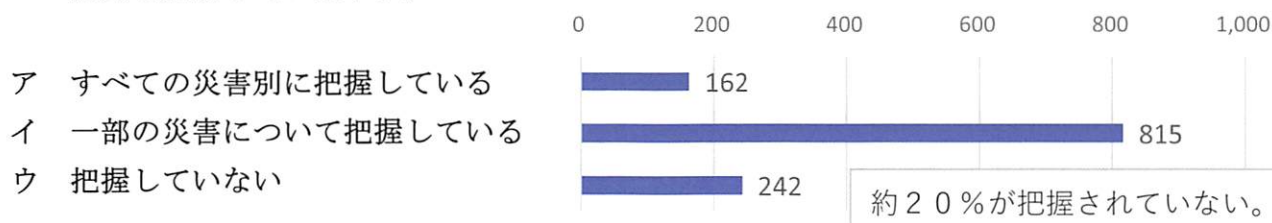
(一) 土砂災害(9) 河川の氾濫(7) 大雨時などの降水量

(朝・自) 土砂(崖、擁壁、道路不通) 水害(浸水、河川氾濫、洪水、床上床下浸水) 土嚢積み  
みの箇所 一人暮らし ハザードマップにはかかってない

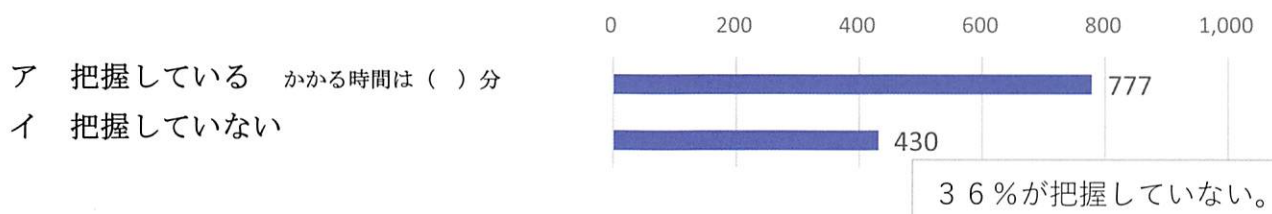
(朝・委) 土砂災害(13) 洪水(3) 津波 浸水 川が近く怖い 台風等で冠水し通る道がなくなると帰宅不能

(鹿) 浸水(洪水津波)(73) 土砂災害(17) 水害(3) 津波や増水により堤防決壊(3)  
浸水による避難道路使用不可(2) 避難のタイミングが難しい ライフライン 台風  
強風・大雨 避難時のブロック塀の倒壊 避難のタイミングが難しい 避難時のブロック塀の  
倒壊 命の危機を感じる 土砂災害や急傾斜危険区域が団地の進入路に設定されている(杜の  
宮団地が孤立する恐れ)

## 2. あなたは、「ハザードマップ」を確認し、災害の種類に応じた安全な避難場所や避難経路を把握していますか。



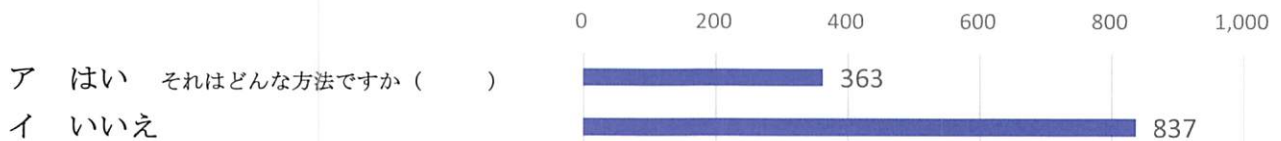
## 3. あなたは、避難場所までかかる時間を把握していますか。また、それはどれくらいですか。



## ア 把握している かかる時間は( )分ぐらい 記入されたものを以下の時間に分類しました。



4. あなたの家族では、災害時に連絡を取り合う方法を決めていますか。

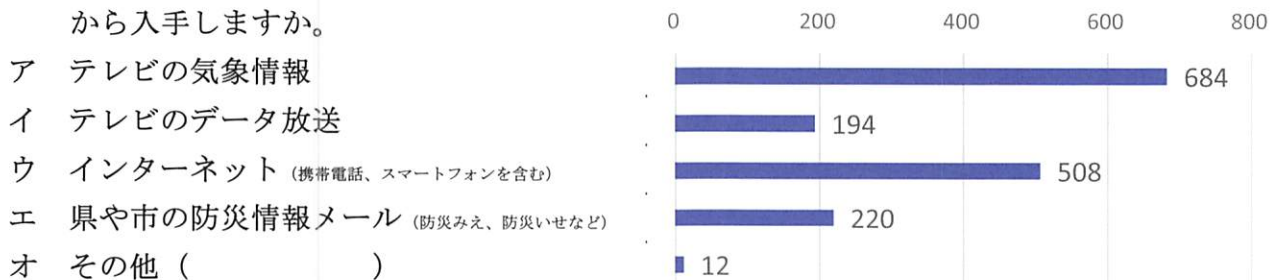


約30%しか決まっていない。

ア はい それはどんな方法ですか ( ) に記述されたこと

- ・携帯電話（電話を含む） ・メール（ライン・ショートメール・Eメールを含む）
- ・伝言ダイヤル・避難場所・集合場所を決めている(知人宅を含む)
- ・玄関に張り紙・知り合い（近所を含む） ・伝言板 （回答数343件）

5. あなたは、大雨や台風などの際に、お住まいの地域の雨量などの情報を、主にどこから入手しますか。

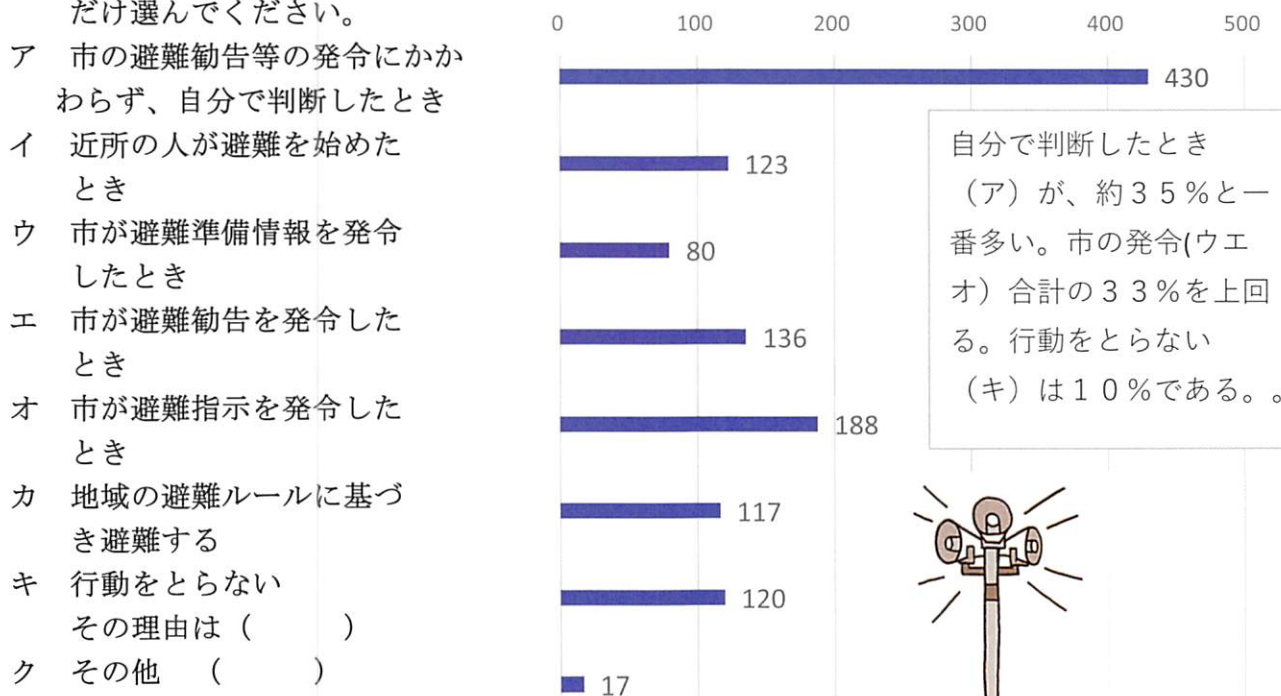


テレビを情報源とする割合が高いが、停電時にはテレビなどからの情報は取れなくなる。

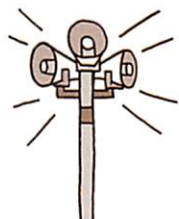
オ その他 ( ) に記述されたこと

- ・国土交通省中部地方整備局の河川ライブカメラ ・テレビの気象情報、データ放送、インターネット、県や市の防災情報メールのすべて ・その時による ・エリアメール ・防災いせ防災みえ ・河川の目視

6. 大雨や台風の場合、あなたはどの時点で避難を判断して行動を開始しますか。一つだけ選んでください。



自分で判断したとき（ア）が、約35%と一番多い。市の発令(ウエオ)合計の33%を上回る。行動をとらない（キ）は10%である。



キ 行動をとらない その理由は（ ）に記述されたこと

- (中) 外出が、より危険な場合がある。家が安全。家が高台。ハザードマップで自宅の安全性を確認。必要がないため。身体的に避難が難しい。
- (楠) 高台に住んでいる(4)。ペットがいるため(3)。自宅2階へ(2)。寝たきり家族がいる。足が悪い(2)。高齢で逃げない。移動手段がない。このエリアは安全。自宅が安全。避難する方が危ない。途中に川がある、自宅で1週間はしのげる。
- (緑) 家が一番安全安心(13)。要介護5で寝たきりの家族がいるので。浸水の恐れがない高台に住んでいる。自宅が高台で周りが木で囲われているから。
- (一) 自宅の方が避難所より高いから。大雨台風時は周囲を見てから。避難ルートが危険。要支援者がいる。ペットがいる。在宅で病气患者がいる。
- (朝・自) 歩行困難。高齢の為。支援が必要。特に心配がいらぬ。比較的高い位置に家がある。地域の持場で、面倒だから。
- (朝・委) 自宅が安心。情報が正確でないため。
- (鹿) 自宅が安全(15)。出勤命令が出る。自宅が避難場所とほぼ同位置。避難場所が遠すぎる。自宅に介護が必要な家族がいる。ペットを飼っているから。高台住宅なので(近所の人をバックアップするため)。山商の避難所開設が遅い伊勢トピアは遠い。雨の中避難するのは大変。一人ではいけない。コロナ対策ができてるところ。

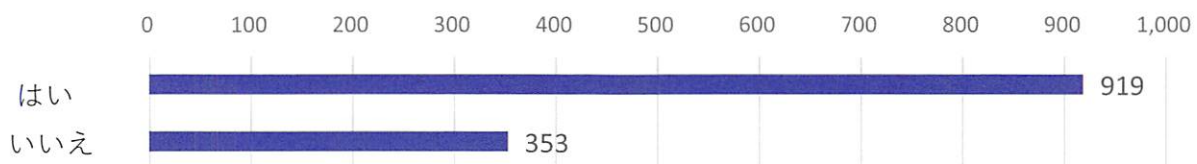
自宅が安全という回答が多かったが、避難行動がとれない方もいる。(高齢など)

ク その他（ ）に記入されたこと

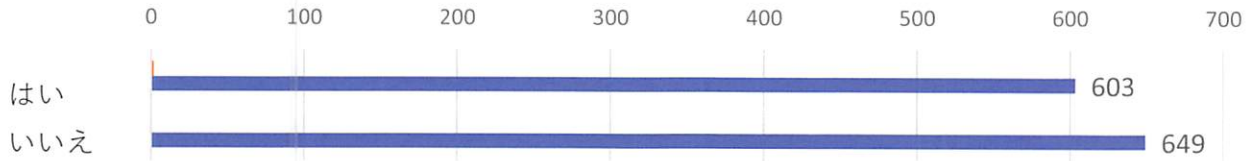
- (楠) 要支援の為公共の援助を頼む。その時にならないとわからない。前の川の水量で判断。
- (一) 逃げ場がなく屋内で垂直避難するしかない。
- (朝・委) 地区内の放送が全く聞こえない。指定場所より家の方が安心。家の周りが水害土砂災害エリアでないので自宅が安全、安全だから。

7. あなたは災害に備えて次の各項目を行っていますか。

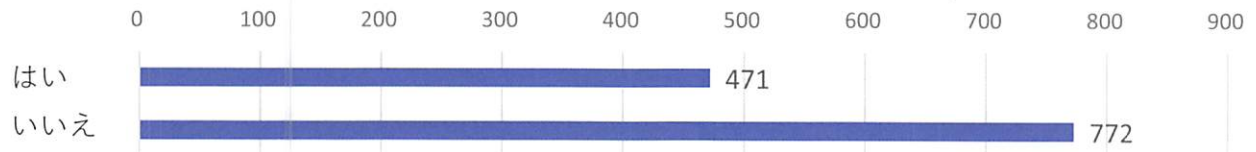
ア 懐中電灯、携帯ラジオ、非常食料品、医薬品等「非常持ち出し品」を用意していますか。



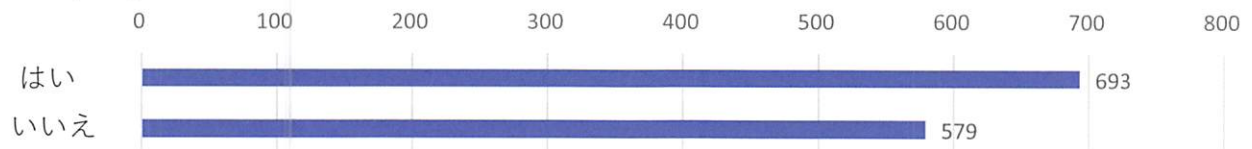
イ 三日分以上の食糧や飲料水などを備蓄していますか。



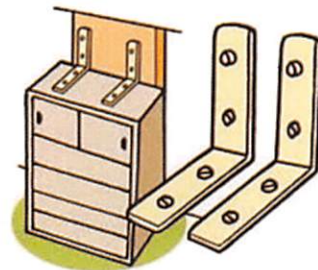
ウ 災害時を想定した家族内の会議や話し合う機会を持っていますか。



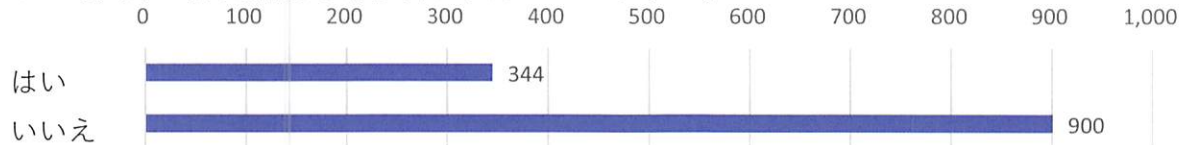
エ 家具の転倒防止、または倒れやすい家具を置かないなどの防災対策を取っていますか。



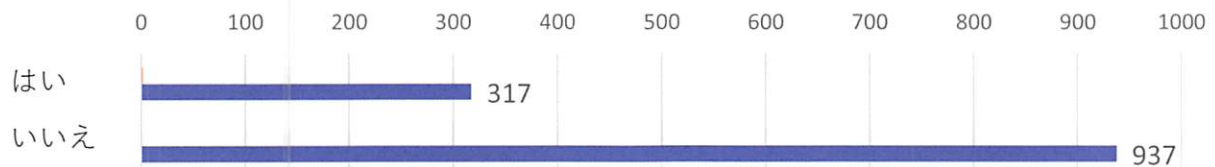
家具の対策は約54%で、対策済みのほうが多いが、十分対策されているとは言えない。



オ 町内外の防災活動や研修会に参加していますか。

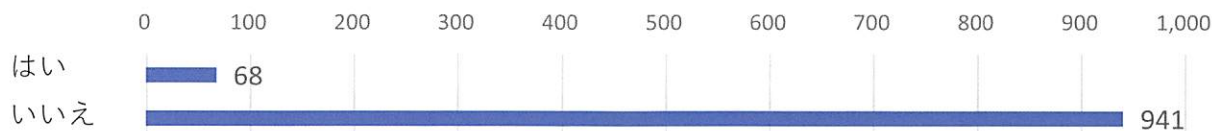


カ 町内会の自主防災組織に加入や参加をしていますか。



アの非常持ち出しは70%を超えているが防災活動や研修会参加等の項目では十分とは言えない状況である。

8. 災害にあたって、支援が必要とされる方への対策は何かとられていますか。



支援対策をとっているのが10%以下である。

ア はい どのような対策を取られていますか ( ) に記述されたこと

(中) 車移動。災害時の支援が必要な名簿への登録。一人住まいの近所の高齢の方に情報を伝えて  
います。

(楠) 親戚に電話して救助を頼む。二階に上がる。兄弟子ども、若い者がいないと無理。避難場所  
確認、電話によって確認を取る。子どもに連絡する。声掛けと共に避難をする。すぐ連絡でき  
るようにしている。近所なのでスマホで確認して連れに行く。日常使用し避難するときはすぐ  
用意できる。

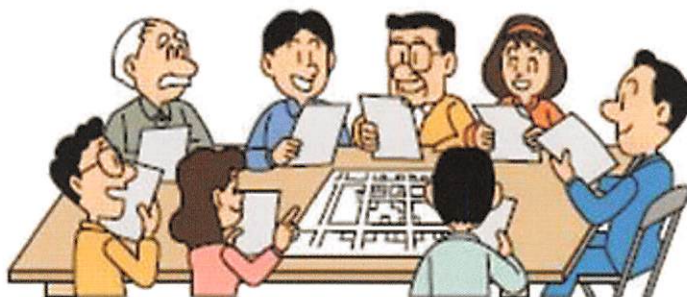
(緑) 市へ届けを出している(2)。お隣様に依頼。歩行援助。食料等。声かけ協力。補助可能な  
ことを状況に応じて。非常袋を用意。水や食糧を多めに。

(一) 市のリストをもとに支援する。ポータブルトイレ食料下着等。電話にてすぐ連絡取り合う。

(朝・委) 町内の備蓄倉庫・防災組織の班に基づいた対策(4)。井戸を使用できる状態。自治会  
の指示にしたがって近くに住む方が独居のかたへの声掛け避難所への誘導(2)。携帯電話で  
連絡。

(鹿) ・早期避難の呼びかけ。物資を提供する。

自治会として、個人としてなどいろいろな対策が報告されている。共助の内容が多い。



- ◎ 来月発行予定の別紙「**四郷地区の皆さん、普段から災害に備えましょう!**」に、災害用伝言ダイヤルの体験、災害情報の入手の仕方、近年身近に起きた災害事例、災害時の持ち出し品リスト、備蓄品チェックリストをつけました。防災・減災にご活用ください。

## アンケート集計結果から

- 防災意識に関しては「防災意識が高まっている」割合が90%であり、自然災害の発生についての意識は高い。
- 防災への備えに関しては全体的に意識が低い傾向にある。
  - ・ハザードマップでの災害リスクに関しては44%が確認していない。災害の種類ごとに自宅周辺及び避難路、避難に掛かる時間等把握が十分でない。
  - ・家族等との連絡方法についても70%が決めていない。
  - ・避難行動の開始については、「自分で判断したとき」が35.5%で一番多く、市からの発令(避難準備情報・避難勧告・避難指示の合計33%)を上回っている。
  - ・非常持ち出し、食糧、水、家庭内での危機管理、家具の転倒対策、支援が必要な人への対策等は10%しかとられていない状況である。
- 「災害に当たって、今、不安に思うこと」の記述に関して
  - ・指定避難所そのものの安全性(施設、コロナ禍など)に関すること、
  - ・指定避難所までの経路の問題(冠水しやすい道を通らなければならない・古い橋を渡らなければならない・道が冠水している・遠いなど)、
  - ・高齢者や体の不自由な人がうまく避難できるのか(連れて行けるのかなど支援の問題)避難所へ移動する際の不安、避難所での生活に関する不安など、
  - ・五十鈴川の堤防の脆弱性に関する不安、洪水・浸水被害に関する不安、自宅近くや通学路の土砂崩れの心配、
  - ・災害時に家族間で連絡を取り合う方法等を決めていないこと、などがどの地区からも多く挙げられていた。
- 防災・減災に関する研修や講演の希望には、
  - ・避難訓練に関して、リアルな避難訓練(炊き出し訓練・夜間宿泊訓練・人員配置訓練等)の実施と充実、高齢者等災害弱者の避難の仕方、
  - ・被害者支援のスキルを身に付けておきたい(人工呼吸、ファーストエイドの研修)、
  - ・居住地や近隣地区の過去の災害に関する研修、防災意識につながる研修、
  - ・防災に関する研修会、訓練の回数を増やしてほしい、
  - ・三助の意識や知識の啓発、
  - ・ハザードマップや防災についての学習会や研修会、
  - ・避難所運営(避難所の安全性、コロナ対策)、
  - ・五十鈴川の増水や決壊で、どのような被害が想定されるか、など様々な要望が寄せられた。

